

1.はじめに

1-1. 足助町について

足助町は愛知県東部の山間に位置し、中馬街道の宿場町として発展してきた。1775年の大火後に形成された町並みは、県内初の重要伝統的建造物群保存地区に指定されており、香嵐溪を中心とした観光地として知られている。一方で、都市部から離れ、公共交通の利便性が高いとは言えない立地条件にあるため、来訪手段は自家用車に偏りがちであり、観光客の行動範囲や滞在時間にも影響を及ぼしている（画像1、2、図1）。



画像1 足助の町並み



画像2 香嵐溪

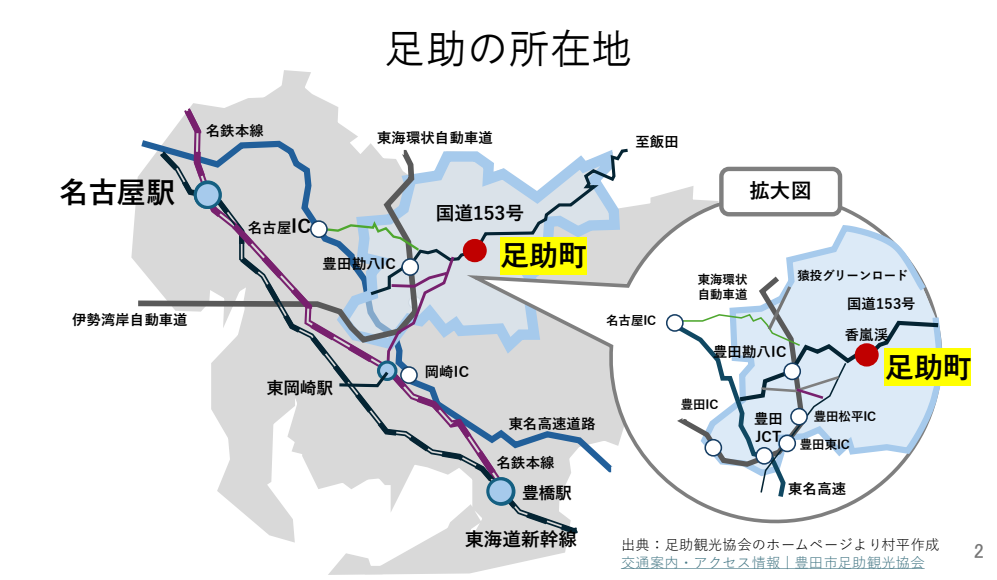


図1 足助の所在地

1-2. 現状分析

足助町では観光需要の季節偏在と少子高齢化を背景に、持続可能な地域活性が課題となっている。その解決策として、閑散期にも来訪動機を生む体験型コンテンツの導入が有効である（図2、3、4）。

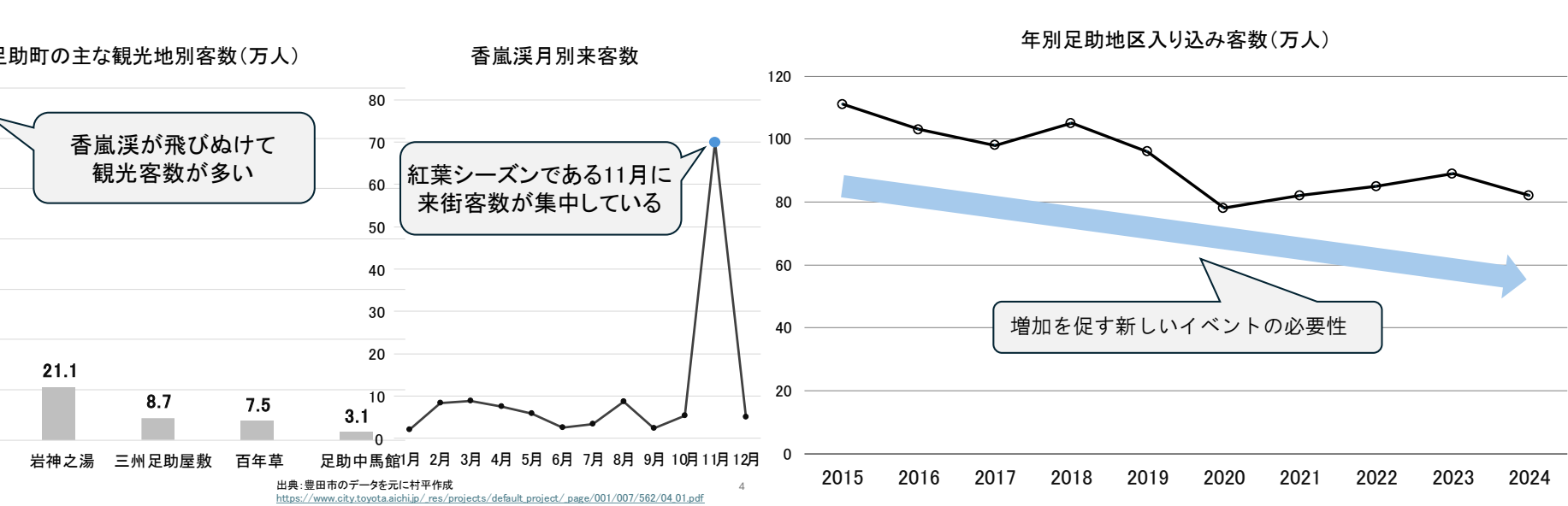


図2 足助町催し集客数

図3 足助町年齢別人口

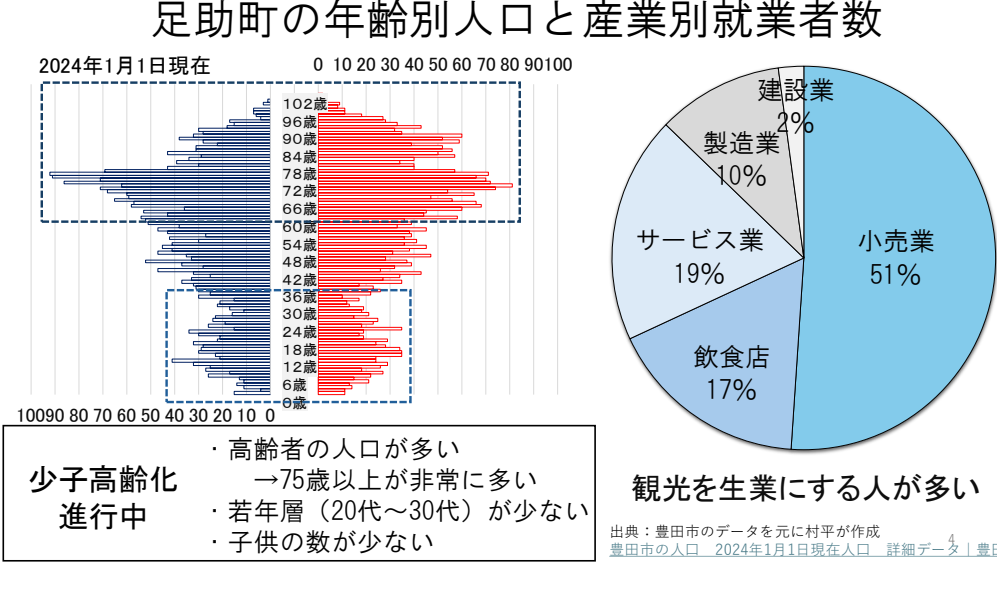


図4 左：足助産業別就業者数
右：足助年齢別人口

2. 企画の目的と組織スケジュール

2-1. 企画の目的

本研究は、街歩き型謎解きイベントによる足助町への関心喚起と来訪促進の効果を明らかにし、通年集客の可能性を検討することを目的とする。

2-2. 実行委員会組織

実行委員会の組織図を図5に示す。
【読売センター足助】
イベントの主催者。椋山と地元の足助高校生をつなぎ、イベントの主たる担当を担ったことで、三者が連携したイベントの開催が実現した。
【足助高校 観光ビジネスコース】（画像3）
足助高校はアイデア提案の立場から参画し、ストーリーやイベントルートを検討。あわせて協力店舗候補の検討や店舗ポスター設置などを行った。
【椋山 秋田研究室】
椋山女学園大学秋田研究室は、企画運営の補助や、SNSを用いた広報活動を行った。また、事例調査および類似イベントの参加を行い、初回打ち合わせ後には内容の整理と記録を行った。



画像3 足助新聞謎めぐり実行委員会

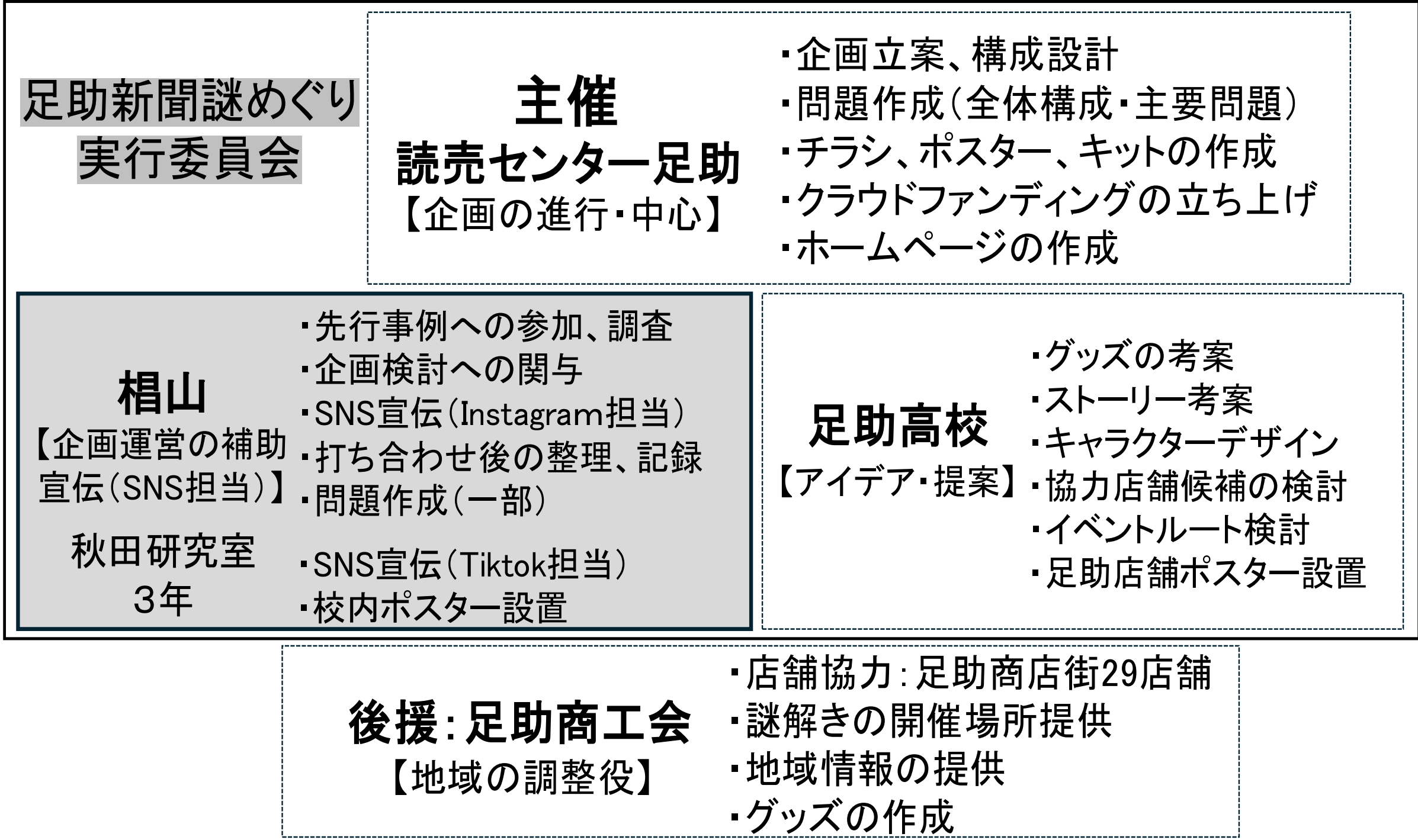


図5 足助新聞謎めぐり実行委員会組織図

2-3. スケジュール

12月10日から12月25日の期間で謎めぐりイベントを開催した。初回は読売センター足助と椋山女学園大学による打ち合わせを行い、企画の方向性を共有した。その後、足助高校を交えた打ち合わせを実施し、具体的な内容の検討へと進んだ（表1、画像4）。



画像4 左：高校生プレゼン発表 右：ストーリー発表

表1 打ち合わせの日程とイベント実施日

	日程	内容	参加者
2月	2/26	初回打ち合わせ	読売センター
3月	3/17	授業の進め方確認	読売センター・足助高校
4月	4/18	高校生と顔合わせ	読売センター・足助高校
	4/25	高校生ストーリーのプレゼン発表	読売センター・足助高校
5月	5/9	決定ストーリーの発表	読売センター・足助高校・商工会
	5/16	内容詳細の考案・店舗アンケート作成	足助高校・商工会
7月	7/9	日程の変更・今後の予定確認	読売センター
9月	9/8	キットの詳細確認・問題の考案	読売センター
10月	10/17	店舗訪問・協力依頼	読売センター・足助高校
11月	11/12	PR動画撮影	
12月	12月10日～12月25日		謎めぐりイベントの実施

3. 梶山の企画準備内容

3-1. 全国の町歩き型の謎解きイベントの事例調査

全国の町歩き型謎解きイベントの事例調査では、観光地を舞台とした周回型の謎解きイベントや、地域資源を活用したイベントなどが全国で行われていることがわかった。

3-2. 「名古屋大須謎解き食べ歩き」の参加

7月15日に名古屋・大須で開催された「大須 謎解き食べ歩きイベント」に参加し、構成を参考とした。

3-3. お店の選定・許可取り・情報収集

足助商店街で協力を依頼する店舗の選定は、地域をよく知る足助高校の学生が担当した。10/17の打ち合わせ日に、高校生と梶山で商店街を訪れ、各店舗を回り、協力依頼および許可取りを行った。
また、その過程で、イベントに盛り込む要素や運営上の配慮すべき点について、各店舗の営業時間や店舗前スペースの利用状況を中心に聞き取りを行い、実施に向けた情報を収集した（画像5）。



画像5 店舗訪問の様子

3-4. 広報活動

- 広報には、以下の5つの方法で実施した。
- ①チラシ・ポスターの作成（画像6）・・・担当：読売センター
 - ②クラウドファンディングの実施・・・担当：読売センター
11月15日から11月30日の期間で実施した。
 - ③チラシ・ポスターの掲示・・・担当：梶山、足助高校
足助町内の約30店舗及び梶山女学園大学全学部のエレベーター内などに設置した。
 - ④動画の撮影・・・担当：読売センター 出演：梶山
足助の町並みや自然の中で謎解きが楽しめる様子をPR動画として撮影した（画像7）。
 - ⑤SNSの活用・・・担当：梶山
TikTok・Instagramに公式アカウントを作成し、イベント内容や周辺店舗の情報を発信した（画像8）。



画像6 チラシ右：表 左：裏

画像7 右：動画撮影

左：完成動画



画像8 各SNSアカウント

4. イベントの実施・結果

4-1. 実施概要

開催日：2025年12月10日～25日 9：00～17：00
場所：愛知県豊田市足助町（香嵐溪、足助の町並みエリア）
金額：2000円（内500円商店街で利用可能な商品券）
キット：謎解きの冊子、新聞記者の腕章、ペン、カバン（画像9）



画像9 キットの内容

問題冊子

最終問題

バッグ

腕章

4-2. アンケート結果

参加者は106名で、アンケート回答のあった13名分を分析した。町外からの参加者が多く、謎解きを通じた街歩き体験が高く評価されていた（図6、7）。

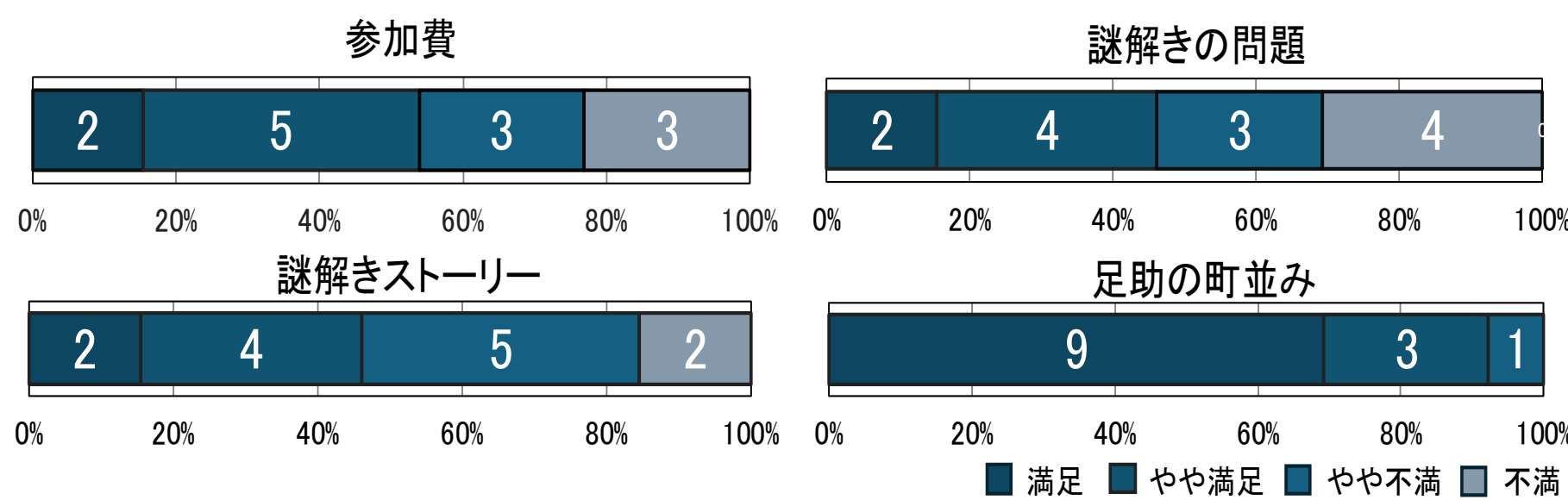


図6 参加者の満足度アンケート n=13



図7 来訪元地域アンケート n=13

自由記述

謎解きを通して、足助の歴史や新たな魅力を知ることができた。

町並みと香嵐溪を巡る動線が分かりやすく探索が楽しかった。

謎解きのおかげであまり行かない場所に行けた。

紅葉がなくても味わい深い景色や空気、町並みなど、とてもいい時間が楽しめた。

5. おわりに

本研究で実施した足助新聞謎めぐりイベントは、謎解きを通じて参加者に町歩きを促し、足助の町並みや地域への関心を高めた。特に、謎解きと町並みの結びつきが高く評価され、「町を歩くきっかけになった」、「普段行かない場所に行けた」といった意見が確認されたことから、体験型イベントは地域への関心を高める有効な手法である可能性が示された。